3日目（自由行動）バスツアーチーム

クリップ追加

2008/9/11(木) 午後 10:20　　無題　　練習用

0

写真：上から、マイヤーリング入口の標識、マイヤーリングの礼拝堂、ハイリゲンクロイツ、ハイリゲンクロイツ回廊、ジーグロッテの記念碑。

前日の観光打ち合わせで、I先生とYさんがバスツアーに参加すると話され。ご希望の方はご一緒しましょうとの事でしたので、私は、東京のはとバス気分で参加を希望しました。ところが、このバスツアーはウイーンの郊外に

ある史跡を辿るツアーだったのです。＜参加者、C.I.さん、M.Aさん、K.Yさん、報告者の４人＞

当日は9時30分頃、ピックアップのバスが来るとの事でロビーで待ち合わせ。しばし、待ち時間がありましたが無事、バスが到着し乗車。早速、ツアーの開始と思い、張り切っていたところが、どうも、これは、ピックアップ専用のバスらしく、とあるバスターミナルに到着。そこで、目的ツアーバスに乗り換えました。

バスの乗車率は半分以下で、余裕の座席でした。ワンボックスを１人で使いながら、ツアーの開始です。街中を抜けて、一路郊外、ウィーンの森方面へバスは走ります。車窓には、広い畑が見えていましたが、いつの間にか、木々が多くなり出し、森の中を走っていました。その、景色がなんともいい感じでした。
さて、最初に到着したのがMAYERLING（マイヤーリング）です。道路から、上り坂をやや登るとそこには、こじんまりとした教会のような建物がありました。ここは、皇太子ルドルフのゆかりの地です。ハイリゲンクロイツから西へ約4キロ。ハプスブルグ家の「狩りの館」が会った場所です。1899年（明治22年）1月30日、この館でオーストリア皇位継承者ルドルフ皇太子が愛人とされるマリー・ヴェッツェラとピストル自殺を遂げたのでした。その事件後、皇帝はこの館を取り壊し修道院を建設しました。そして、今回、見学した礼拝堂だけが残っているのです。

50人程度でいっぱいになりそうな、小さな礼拝堂に続いて、当時の資料などが展示してある部屋が続いており、そこには自殺を嘆き悲しむ母親などの絵や資料ありました。この部屋は、当時の館の部屋を再現したと言われています。

続いて、向かったのがCistercian Abby of Heiligenkreuz（ハイリゲンクロイツ修道院）です。
ここは、中世ヨーロッパ最大の修道院と言われ、図書館、学校、病院など全てが集約されていたそうです。当然、自給自足の生活をしており、農作物や酒なども造っていました。歴史的には1133年にバーベンベルク辺境伯レオポルト三世によって創建されました。シート派の修道院で12世紀に建てられたロマネスク様式と13世紀のゴシック様式の内陣が残されており、中庭にはルネスサンス様式の美しい回廊が巡らされていました。現在も使用さていて、見学の最中にも礼拝に向かう牧師さんの姿を見ることが出来ました。900年前にタイムスリップしたようでした。

最後に向かったのがSeegrotte（ゼーグロッテ）です。此処は鍾乳洞です。以前は石灰などを掘り出していたのですが、第二次世界大戦中に、ナチの飛行機製造工場としても使用されました。地下60メートル、水深120センチメートルの地底湖が広がっているのです。此処は、強制労働の場所として使われていました。どれくらいの人達が此処で働いていたかは不明です。ガイドの説明に夜とこの洞窟で生まれ育った馬は目が見えなかったとのことで、何か、寒々としたものを感じました。所々には、当時作られた飛行機の部品がそのまま、残っていました。戦争でこの施設は破壊され、一時は、人が入れる状態ではありませんでしたが、後に観光用として3年の月日をかけて改修され、現在に至っているとのことでした。

夏なのに、摂氏9度と、半袖では寒くていれません。戦争当時、強制労働の人達は、どんなに寒かっただろうと思いました。広い地底湖は水深が一定になるように常に水をくみ上げているとの事でした。飛行機部品を製造している当時は、地底湖の水を全部くみ上げ作業をしていたそうです。しかし、実際、此処で作られた部品で飛行機が組み立てられたことはなかったとの事でした。

思いもかけず、とても、価値のある史跡を巡ることができました。私、１人で来たならば、絶対見なかったであろうオーストリアの歴史に触れることができ、とても有意義なツアーでした。紹介して下さった、I先生に感謝しております。

午後1時30分頃、市内に戻りました。その後は、各自が市内散策を自由に行いました。ちなみに私は職場へのお土産を買いました。

以上で、報告は終わりです。このツアーはなんとドイツ語、イタリア語、英語の3ヶ国語ツアーでした。M.A.さんがドイツ語の説明を通訳して下さったので、私にも何とか、内容が理解でき本当に助かりました。有り難う御座いました。心から、感謝申し上げます。
（文責：H.H.）

マイアーリングの狩猟の館は、ハプスブルグ家のものというより、皇太子ルドルフが自分のために買ったものです。彼はドイツ帝国と仲良くしたいと言う父親のフランツ・ヨゼフと政治政策で対立していて、自分の同志やフランスからの使者などと心置きなく会見したり、密談するために手に入れました。結局、彼は父親の権力の前に破れ（オーストリーはドイツと協定を結んだので）、それがもとで命を絶ったというのが定説になっています。（K.K.記）